シラバス参照

タイトル「2014年度シラバス（多・教・経・医・歯・薬・工・環・各研究科）」、開講所属「多文化社会学部」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

学期	前期	曜日・校時	木３
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20144805006001	科目番号	48050060
授業科目名	グローバルキャリアへの扉		
編集担当教員	源島 福己		
授業担当教員名(科目責任者)	源島 福己		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	源島 福己,広瀬 訓,森川 裕二,佐藤 美穂,見原 礼子,近江 美保		
科目分類	学部モジュール		
対象年次	1年	講義形態	
教室	[教養G棟]G-3A		
対象学生（クラス等）	1年生		
担当教員Eメールアドレス	fgenjima@nagasaki-u.ac.jp,shirose@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	源島（言語教育研究センター2階）、廣瀬（核兵器廃絶研究センター）		
担当教員TEL	源島（2238）、廣瀬（2204)、近江（2917)、佐藤（7794)、森川（2904)		
担当教員オフィスアワー	源島：水４限、廣瀬：水３限、森川：火13:30－15:00、佐藤：金13:30－15:00		
授業の概要及び位置づけ	グローバル人材とは何か、グローバル社会で活躍するための能力、適性、資格等の諸要素や必要条件とは何か等に付いて、教員が個々人の実社会での職業体験に 基づいて講義する。講義内容は座学の他に、グループワーク、意見発表会やレポート作成、外部講師の講演等が含まれ、この授業を通して学生は幅広い職業世界 についての理解を深め、グローバル人材として活躍するためには、高度な語学の運用能力、留学、インターンシップ、ボランティア等の経験が重要であることを 理解する。また、その理解に立って自分の進路の方向性を定め、将来に向けた準備として、学問や様々な社会活動に積極的に取り組む必要性を再認識することが 期待される。本科目はキャリアについての基本的な理解を通して、学生に将来の仕事と学問の関係性を学ばせるための導入教育である。		
授業到達目標	職業世界に関する具体的な知識を増やし、自分の能力、性格や適性を考えて将来の職業をイメージし、そうした職業に従事する際に必要な学問の領域、様々な資 格や要件についての具体的な理解を深める。またそれらの諸要素を身に付けるために、これからどのような学問を関連的かつ体系的に修めるべきか、どのような 社会活動に参加すべきかを考え、実際に行動に移せるようになり、その内容を簡潔に分かり易く他者にも説明できる。		
授業方法（学習指導法）	本授業は6人の教員によるオムニバス方式の授業であり、個々の教員が異なるテーマに関して適宜授業中に教材を配布したり、あるいは授業の前後に学習内容を 指定する。学生はそれ等を熟読した上で質疑応答やグループディスカッション等を交えた授業を行う。また授業では各種のIT機器を用いて、映像等を利用した より視覚的な授業を提供する。授業は双方向性を図るために、できるだけグループワークやディスカッションを取り入れ、議論した内容について発表をさせるこ とがある。また個々のテーマについて教員がレポート課題与え、レポートを提出させる。授業の中で、外部講師を招いて講演を行うこともある。		

回	内容
1	4月10日（木）廣瀬訓 各教員紹介、授業のガイダンス、国際機関の仕事：外交官、NGOスタッフ、国際公務員は何が違うのか

授業内容	2	4月17日（木）廣瀬訓 国際機関で働くには何が必要か（語学力、資格、学力、学生時代の準備、専攻科目、留学体験等）
	3	4月24日（木）廣瀬訓 国際機関で求められる能力と仕事の現実 課題レポート1
	4	5月1日（木）見原礼子 UNESCOについて
	5	5月8日（木）見原礼子 体験して感じたUNESCOの現実と課題
	6	5月15日（木）見原礼子 私はなぜUNESCOで働こうと思ったのか（学生時代の学びと卒業後の職歴） 課題レポート2
	7	5月22日（木）近江美保 グローバルキャリアとしてのNGOという職業選択
	8	5月29日（木）近江美保 NGOの現実と問題点 課題レポート3
	9	6月5日（木）佐藤美穂 女性と健康問題を通して考えるキャリア
	10	6月12日（木）佐藤美穂 貧困の現実と国際NGO活動 課題レポート4
	11	6月19日（木）森川祐二 ジャーナリストの仕事と求められる能力
	12	6月26日（木）森川祐二 ジャーナリストの現実と私のキャリアパス 課題レポート5
	13	7月3日（木）源島福己 企業のグローバル化と社会人に期待される能力（社会人基礎力）
	14	7月10日（木）源島福己 キャリア形成のための自己理解（Life Story) 課題レポート6
	15	7月17日（木）源島福己 職業選択とキャリア探索 学生による授業評価
	16	
キーワード	グローバル化、グローバル人材、国連、UNESCO,NGO、NPO、ジャーナリズム、民間企業	
教科書・教材・参考書	教材は関連資料等を原則として教員が準備し配布する テキスト、参考書等は必要に応じて適宜指示する	
成績評価の方法・基準等	各教員から要求されるレポート（90%)、授業参加の状況（10%）	
受講要件（履修条件）	一部英語による授業を含むので、積極的に英語を使ってコミュニケーションを行うこと	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	グローバル人材になるための志を互いに共有し、友達を作り切磋琢磨し合おう	

戻る

Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

シラバス参照

タイトル「2014年度シラバス（多・教・経・医・歯・薬・工・環・各研究科）」、開講所属「多文化社会学部」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

学期	後期	曜日・校時	木１
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20144805002001	科目番号	48050020
授業科目名	アジア理解への扉		
編集担当教員	首藤 明和		
授業担当教員名(科目責任者)	首藤 明和		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	首藤 明和,南 誠,野上 建紀,賽漢卓娜,王 維		
科目分類	学部モジュール		
対象年次	1年	講義形態	
教室	[教養G棟]G-3A		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	王・南・賽漢卓娜（随時），野上（火－３），首藤（木－３），但しメールによるアポイントメントが必要		
授業の概要及び位置づけ	①アジア近代への基本的な認識枠組みを学ぶ。その上で，②海洋都市・長崎の世界との交流を，「アジアのなかの長崎，長崎のなかのアジア」という視点の下， 陶磁器や沈没船などの海底遺跡，あるいは唐寺や中華街の祭礼にみる文化の伝播・受容などから具体的にみる。さらには，③今後のアジア及び長崎の課題・展望 を，国際関係の変遷や，民族，ジェンダーの変容などに着目しつつ，理論と実践の双方から考える。		
授業到達目標	①長崎とアジアの関係を，歴史的，文化的，および地政学的な視点から理解し説明できるようになる。②世界における私たち自身のポジションをアジアの歴史と 現在から捉えることができるようになる。③長崎を足掛かりに世界を舞台に活動する意義や方法を見出すことができるようになる。		
授業方法（学習指導法）	レジュメやプリントを配布する。また，画像や映像資料などの視聴覚教材やパワーポイントを利用して授業を行う。授業後，適宜，ミニレポートを要求すること になる。受講者は，授業の内容を踏まえた上で，提示した参考文献や資料などを積極的に読むよう心掛けてほしい。		
	第１回～第３回では，脱亜と興亜，強権と公理，内発と外発からアジア近代を概観する。第４回～第６回では，アジアで出土した陶磁器や沈没船などの海底遺跡 からみた「海を介したアジアの交流」を紹介する。第７回から第９回では，「アジアと長崎の歴史と文化」，「長崎と中国」，「長崎と華僑」をテーマに，特に 中国との交流と中国文化の伝播・受容の歴史を紹介する。第10回～第12回では，現代中国の家族観と「男女平等」，アジアにおける日本人の移動とジェン ダーなどを取り上げ，ジェンダーの変容を紹介する。第13回から第15回では，戦前戦後の東アジアにおける人の移動について，国際関係の変遷や国家の管理 システムに着眼しながら紹介する。		

回	内容
1	アジア近代を概観する(1)――「脱亜と興亜」の視点
2	アジア近代を概観する(2)――「強権と公理」の視点

授業内容	3	アジア近代を概観する(3)――「内発と外発」「相互交渉と共変関係」の視点
	4	海を介したアジアの交流(1)――陶磁器からみたアジアの交流
	5	海を介したアジアの交流(2)――窯跡からみた東アジアの製陶技術交流
	6	海を介したアジアの交流(3)――沈没船と港の遺跡からみたアジアの海上交易
	7	「アジアと長崎」――アジアと長崎の交流の歴史的視点からの検討
	8	「長崎と中国」――長崎の中国文化受容の文化的視点からの検討
	9	「長崎と華僑」――地域的視点からの検討
	10	東アジアのジェンダー(1)――漢族の伝統的観念
	11	東アジアのジェンダー(2)――現代中国の家族観と「男女平等」
	12	東アジアのジェンダー(3)――現代日本人の移動とジェンダー
	13	近代東アジアにおける人の移動(1)（戦前編）
	14	近代東アジアにおける人の移動(2)（戦後編）
	15	近代東アジアにおける人の移動(3)（総括編）
	16	筆記試験
キーワード	近代化，陶磁器，沈没船，港，窯跡，唐寺，唐人屋敷，華僑，中華街，祭礼，ジェンダー，移動，国際関係	
教科書・教材・参考書	随時プリントを配布。適宜参考書を紹介。	
成績評価の方法・基準等	ミニレポート（50点），期末筆記試験（50点）	
受講要件（履修条件）	授業内容に関連する長崎の施設・遺跡の見学を授業の予復習とする。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	質問や相談は気軽に研究室へ（ただし、オフィスアワーに）。	

戻る

Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

シラバス参照

タイトル「2014年度シラバス（多・教・経・医・歯・薬・工・環・各研究科）」、開講所属「多文化社会学部」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

学期	後期	曜日・校時	木２
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20144805003001	科目番号	48050030
授業科目名	アフリカ理解への扉		
編集担当教員	増田 研		
授業担当教員名(科目責任者)	増田 研		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	増田 研,波佐間 逸博,鈴木 英明		
科目分類	学部モジュール		
対象年次	1年	講義形態	
教室	[教養G棟]G-3A		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	ken-m@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	総合研究棟2F		
担当教員TEL	095-819-2923		
担当教員オフィスアワー	火曜日16:10-17:40		
授業の概要及び位置づけ	アフリカ大陸は日本からはるか彼方に位置する。だが日本とアフリカは、ひろくヨーロッパやアジアと繋がるひとつの文化的世界を形成している。講義は担当 者それぞれのフィールドワーク体験を紹介することから始まり（第1部）、次いで地理と歴史を概観する（第2部）。第3部では民族紛争やイスラームをはじめ とした宗教問題、さらには長崎大学とアフリカとの関わりを理解することを通して、受講生のアフリカ理解の糸口とする。		
授業到達目標	アフリカ地域に関する基本的な知識を習得し、世界史的な位置づけを明確に説明できること。		
授業方法（学習指導法）	基本的に講義科目であるが、授業を運営するに当たって学生諸君の積極的な参加を求めたい。		

講義は全３部から成る。第１部は担当教員それぞれのフィールド経験を語ることを通じて、アフリカ世界を実感できるようにする。第２部ではアフリカと外部 世界（アジアやヨーロッパ）との関係を軸とした歴史を学ぶ。第３部では現代アフリカ社会に関わる問題、とくに紛争、宗教、病気をとりあげる。講義の最後に は、アフリカのことをより深く学びたいと考える学生のための、さらなる学びのガイダンスを行う。

回	内容
1	「アフリカ」の多様性（増田） アフリカ大陸および隣接地域の地理環境や言語分布といった基礎情報を共有する。とりわけ生業経済の多様性、キリスト教とイスラーム、地中海やインド洋を介した外部との交渉の歴史などを概説し、「アフリカ」を一括りにできないことを理解する。
2	アフリカの生活文化(1) （増田） エチオピアの高地社会と低地社会のフィールドワークから、「国家と民族」の問題を理解する。
3	アフリカの生活文化(2) （波佐間） ウガンダの牧畜民社会のフィールドワークから、生業と民族間関係の問題を理解する。

授業内容	4	アフリカの生活文化(3) （鈴木） 沿岸部のフィールドワークから、アラブとアフリカの地域間の人口移動と文化交流を理解する。
	5	アフリカとインド洋 （鈴木） アフリカと外部とのつながりを、とくにアラブ・イスラーム地域との関連において理解する。
	6	サハラ地域 （増田） アフリカと外部とのつながりを、とくにサハラ交易とイスラーム化の事例から考える。
	7	ヨーロッパ人のアフリカ探検 （増田） 19世紀に活発になったヨーロッパ人によるアフリカ探検と情報収集の歴史的意味を考える。
	8	ヨーロッパ植民地としてのアフリカ （増田） ヨーロッパによる植民地支配と、その影響、歴史的意義を考える。
	9	日本とアフリカの歴史的つながり(1) （鈴木） 近世以降のアジアからインド、アラブ、アフリカへと繋がる海域交流を理解する。
	10	日本とアフリカの歴史的つながり(2) （増田） 近代以降の日本人による海外進出と、アフリカへの渡航の事例をもとに日本とアフリカの歴史的つながりを考える。
	11	現代のアフリカ(1) （増田） 紛争と平和構築、社会開発、経済開発といった現代的トピックを包括的に理解する。
	12	現代のアフリカ(2) 現代思想のムーブメント （波佐間） 政治、言語、ジェンダー、開発をめぐるアフリカからの知の発信を考える。
	13	現代のアフリカ(3) アフリカとイスラーム （鈴木） アフリカとアラブ地域のイスラームを通じた現代的つながり、歴史的なイスラーム化のプロセスを理解する。
	14	現代のアフリカ(4) 長崎大学とアフリカ （増田） アフリカ社会が抱えている保健・医療・感染症問題と、長崎大学の取り組みを理解する。
	15	アフリカを体験したい人のためのガイド（増田・波佐間・鈴木） 講義全体のまとめ、およびアフリカについて学びたい人のためのガイダンス。
	16	期末試験
キーワード	アフリカ、インド洋、社会、歴史、地域、世界史	
教科書・教材・参考書	参考書については講義中に紹介・指示を行う。	
成績評価の方法・基準等	毎回の講義の予習・復習および提出物による評価：70% 期末試験による評価：30%	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	アフリカは日本とほとんど関わりがないように思われていますが、実際はそうではありません。みなさんが社会の中核を担うころには、アフリカは大きなプレゼ ンスを持つようになります。遠からず、アフリカを知っていることが社会の常識になるでしょう。その時代を先取りしてください。	

戻る

Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

シラバス参照

タイトル「2014年度シラバス（多・教・経・医・歯・薬・工・環・各研究科）」、開講所属「多文化社会学部」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

学期	後期	曜日・校時	木３
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20144805005001	科目番号	48050050
授業科目名	日本を知る		
編集担当教員	佐久間 正		
授業担当教員名(科目責任者)	佐久間 正		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	佐久間 正,才津 祐美子,池田 幸恵,木村 直樹		
科目分類	学部モジュール		
対象年次	1年	講義形態	
教室	[教養G棟]G-3A		
対象学生（クラス等）	1年		
担当教員Eメールアドレス	sakuma@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	多文化社会学部1号館		
担当教員TEL	095-819-2920		
担当教員オフィスアワー	授業終了後30分。それ以外の場合は事前に教員と相談してください。		
授業の概要及び位置づけ	本科目は学部モジュール科目の一つである。日本から世界に雄飛しようとする人文社会系グローバル人材にとって、多文化社会に関する知識や語学力・コミュニ ケーション力とともに、日本の歴史や社会、文化についての基本的知識を有していることは必須の条件である。授業では、日本列島の地理的位置や風土的条件に 留意しつつ、アジアさらには世界に開かれた視点から、日本語（池田）、歴史と社会（木村）、思想と宗教（佐久間）、民俗と生活（才津）に焦点を当て日本の 特質について考える。		
授業到達目標	日本の歴史や社会、文化について基本的知識を持っており、それらの内容や特徴について説明できる。		
授業方法（学習指導法）	本科目は4人の教員が担当するオムニバス形式の授業である。		

授業内容

回	内容
1	はじめに 世界の中の日本、日本の中の世界
2	日本語の成立
3	日本語の歴史
4	現代日本語の特質
5	「日本」の成立
6	武家と天皇
7	鎖国と開国
8	「近代」とは何か
9	土着・外来・日本化
10	仏教と神道

	11 徳川社会と儒教 12 近代日本の思想 13 生業ー農山漁村のくらし 14 年中行事 15 人生儀礼 16 定期試験
キーワード	日本語、歴史、近代、思想・宗教、生活・民俗
教科書・教材・参考書	教科書は用いず、資料を配付し、参考文献は適宜紹介する。
成績評価の方法・基準等	定期試験70%、授業への参加30%。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	学部モジュールは、長崎から出発し、アジア、アフリカ、ヨーロッパ（オランダ）をめぐり再び長崎に帰る、多文化社会学部のフィールドをめぐる知の旅です。 世界を知ったとき、日本はどのように見えてくるのか。本授業の学びも踏まえながら、皆さんの新たな日本像を形成してください。

戻る

Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

シラバス参照

タイトル「2014年度シラバス（多・教・経・医・歯・薬・工・環・各研究科）」、開講所属「多文化社会学部」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

学期	後期	曜日・校時	金１
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20144805001001	科目番号	48050010
授業科目名	長崎から出発するグローバル世界へ		
編集担当教員	木村 直樹		
授業担当教員名(科目責任者)	木村 直樹		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	木村 直樹,池田 幸恵, 東條 正,野上 建紀,石司 真由美		
科目分類	学部モジュール		
対象年次	1年	講義形態	
教室	[教養G棟]G-3A		
対象学生（クラス等）	多文化社会学部１年次		
担当教員Eメールアドレス	n-kimura@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	多文化社会学部1号館1階		
担当教員TEL	2914		
担当教員オフィスアワー	水曜日３・４校時		
授業の概要及び位置づけ	文献史学・考古学・言語学・法学の各分野から，それぞれの学問のよって立つ学問的基盤を説明しながら，長崎に関わる講義を行います。特に，日本語の展開・ アジア全体にとって大事件であったモンゴル襲来・長崎を結節点とする人の交流の事象については，複数の学問分野から，異なった切り口でとらえます。		
授業到達目標	多文化社会学部では「ローカルからグローバル」を考える教育を行います。本科目では，長崎という地域が，歴史的にみて常に世界とつながってきたことを学び，そのことが日本列島に与えた影響と世界に与えた影響を考えます。		
授業方法（学習指導法）	講義形式による		

授業内容

回	内容
1	ガイダンス 長崎から世界をみる（木村）
2	アジアの中の元寇（木村）
3	偽使と倭寇の時代（木村）
4	日本近世のゲートウェイ長崎・対馬（木村）
5	近世長崎と通訳・翻訳（木村）
6	近代港湾都市長崎の形成（東條）
7	水中考古学の世界と長崎（野上）
8	鷹島沈船から見える元寇（野上）
9	陶磁器生産と長崎（野上）
10	世界をめぐる日本の陶磁器（野上）
11	長崎通詞の翻訳活動の実態（１）（池田）

	12 長崎通詞の翻訳活動の実態（２）（池田） 13 長崎を通じた日本と国際法の「出会い」（石司） 14 シーボルト父子が遺した功績（石司） 15 まとめ 長崎からみえること（木村） 16 定期試験
キーワード	長崎、異文化交流、国際法、翻訳
教科書・教材・参考書	坂井 隆「「伊万里」からアジアが見える―海の陶磁路と日本―」（講談社選書メチエ）講談社、1998年 ②大橋康二「海を渡った陶磁器」（歴史文化ライブラリー）吉川弘文館、2004年 ③Michael Stolleis, Masaharu Yanagihara (ed.), East Asian and European Perspectives on International Law (Nomos, 2004) ④森岡美子『世界史の中の出島―日欧通行史上長崎の果たした役割 改訂版』、長崎文献社、2006年 ⑤村井章介 『増補中世日本の内と外』（ちくま学芸文庫）筑摩書房、2013年 ⑥田代和生 『新・倭館―鎖国時代の日本人町』（ゆまに学芸選書）ゆまに書房、2011年 ⑦木村直樹『〈通訳〉たちの幕末維新』吉川弘文館、2012年
成績評価の方法・基準等	講義期間中に教員の指示により複数回提出する課題50％と定期試験50％の合計
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	教科書は指定せず、参考書をあげています。ただし、高等学校日本史教科書程度の内容を前提にして講義を行う場合があるので、各自必要に応じて高等学校の教科書などで自習することを勧めます。

戻る

Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

シラバス参照

タイトル「2014年度シラバス（多・教・経・医・歯・薬・工・環・各研究科）」、開講所属「多文化社会学部」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

学期	後期	曜日・校時	金２
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20144805004001	科目番号	48050040
授業科目名	オランダ―ヨーロッパ理解への扉		
編集担当教員	葉柳 和則		
授業担当教員名(科目責任者)	葉柳 和則		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	葉柳 和則,正本 忍,木村 直樹,山下 龍,見原 礼子		
科目分類	学部モジュール		
対象年次	1年	講義形態	
教室	[教養G棟]G-3A		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	hayanagi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	多文化社会学部教員室7（総合教育研究棟12F）		
担当教員TEL	095-819-2932		
担当教員オフィスアワー	金曜日4校時（科目責任者） 他の担当教員に関しては講義中に指示		
授業の概要及び位置づけ	この授業は、近現代ヨーロッパ社会とその文化の光と影を概観することを目的としている。確かに、ヨーロッパの社会と文化は、私たちの現在に決定的な影響 を及ぼしている。たとえば大学での教育・研究は基本的にはヨーロッパで作られたフォーマットに基づいて営まれている。世界システムや諸制度もまたその起源 のほとんどは近代ヨーロッパにある。しかし、アジアやアフリカに対する苛烈な植民地支配があって初めて、ヨーロッパは世界の中心として君臨しえたこともま た事実である。20世紀後半の歴史学や文化学においてヨーロッパ中心史観に疑問を投げかけ、その文化を根底から問い直す動きが活発になったのはそのためで ある。1990年代以降のヨーロッパは、移民の受入れと国境の稀薄化によって近代的システムを根底から問い直す実験の場（EU）となっているが、これは新 たなフォーマット構築の試みである。この講義では、長崎と深い関わりを持ち、ヨーロッパが内包する多様なイシューが集約的に現れる国家オランダにアクセン トを置きながら、複数のヨーロッパの国を事例として検討することで、私たちがいま-ここにおいてヨーロッパ研究をすることの意味を明らかにする。		
授業到達目標	ステレオタイプ化されたヨーロッパイメージを乗り越え、歴史学、社会学、文化研究の知見に基づき、近代初期以降の世界システム変容の中でオランダとその背景に広がるヨーロッパの基本的理解を獲得する。		
授業方法（学習指導法）	基本的に講義科目であるが、教員と学生との間で「問い」と「答え」のやり取りが絶えず行われる。		
	オランダは17世紀から18世紀にかけて「海上帝国」と呼ばれ、世界中に植民地と交易のネットワークを築き上げた。出島における貿易もまたその一環とし てある。現在のオランダは、1952年にECSC（石炭鉄鋼同盟）の創設メンバーと成って以降、ヨーロッパの統合において重要な役割を果たしてきた。ま た、社会・文化的多様性に関する政策の先進的実験国家でもある。この授業では、オランダを「窓」として、近代世界の枠組みを作り、現在、壮大な社会実験の ただ中にあるヨーロッパという地域について概観し、ヨーロッパ研究のための基本視角を提示する。 （計画）		

授業内容	第１回 イントロダクション（葉柳和則） ・ 「ヨーロッパ」を定義することは可能か？ 内包と外延をめぐって 第２回 ヨーロッパの起源と根源（正本忍） ・ 古代ギリシア・ローマ文化、ユダヤ=キリスト教文化 第３回 中世から近世へ（正本忍） ・ ユダヤ=キリスト教文化、宗教改革 第４回 オランダ独立戦争から「黄金時代」へ（山下龍） ・ヨーロッパの権力バランス、宗教対立、貴族と庶民 第５回 オランダ海上帝国と世界システム（木村直樹） ・ ネーデルラント連邦共和国と植民地主義 第６回 近世日本とオランダの関係 （木村直樹） ・ ユーラシア大陸の両端をつなぐ理路と想像力をめぐって 第７回 フランスと近代世界（正本忍） ・市民革命、国民国家、ナポレオン 第８回 近代世界とオランダの位置 （山下龍） ・ ウイーン会議、ベルギーの独立、東インド植民地 第９回 EUへと到る道（見原礼子） ・汎ヨーロッパ主義から統合ヨーロッパへ 第１０回 ヨーロッパの戦後とベネルクス三国（見原礼子） ・統合への道における小国の役割 第１１回 EUの理念と機構（見原礼子） ・壮大な実験としてのEUの概要 第１２回 EUに参加しない国々 （葉柳和則） ・非EU国の戦略：スイスとリヒテンシュタインを事例として 第１３回 ドイツ語圏の移民と多文化政策 （葉柳和則） ・現代フランスの移民政策と多文化状況 第１４回 オランダとベルギーの移民と多文化政策 （見原礼子） ・オランダ・ベルギーの移民政策と多文化状況の現在を探る 第１５回 私たちにとってヨーロッパ研究とは？（全員：コロキアム） ・ヨーロッパを真似る、ヨーロッパに学ぶ、ヨーロッパから学ぶ 第１６回 試験
キーワード	西洋/東洋、オランダ、植民地主義、長崎、EU/非EU諸国 移民
教科書・教材・参考書	特定の教科書は使用しない。教材はできる限りLACSシステムを利用して配布する。
成績評価の方法・基準等	各回の講義課題(30%)、各回のコメント・質問シート(15%)、○学期末試験(55%)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	配布した資料の指定箇所を予め読んでくること、講義の内容に対応した課題に取り組むことを予習-復習として重要視する。

戻る

Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.